

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会

(第 25 期・第 1 回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和 3 年 3 月 10 日 (水) 18:00~19:15
2. 会 場 遠隔会議
3. 主席者：大手委員、沖委員、近藤委員、杉田委員、寶委員、河村委員、窪田委員、立川委員、辻村委員、檜山委員、堀田委員、山中委員
4. 欠席者：小池委員、谷口委員

5. 議 題

(1) 第 25 期 IAHS 小委員会の体制について

互選により、委員長に辻村委員が、副委員長に檜山委員が、幹事に堀田委員が、各々選出された。

(2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

議事要旨(案)を委員に回覧、確認の上、最終版は委員長に一任することが承認された。

(3) 2021 年 Dooge Medal 候補者の推薦について

委員長より資料 2-1、2-2 に基づき、候補者の推薦理由、推薦に至る経緯等について説明があり、IAHS 小委員会として、沖 大幹 氏を Dooge Medal 受賞候補者として 2020 年 12 月 30 日に IAHS 本部に推薦したことが、正式に承認された。

(4) 日本学術会議 学術フォーラムにおける IUGG-IAHS 紹介内容について

委員長より資料 3-1、3-2 に基づき、日本学術会議 学術フォーラム「新たな地球観への挑戦ー地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献ー」(2021 年 2 月 15 日・オンライン)において、IAHS 小委員会を含め、IUGG 分科会構成小委員会の諸活動・成果が、佐竹健治 IUGG 分科会長(日本学術会議 第三部会員)より紹介されたことが報告されるとともに、資料作成協力について委員に対し謝意が表された。

(5) 日本学術会議公開シンポジウム「「水」と「水循環」の研究最前線ー21 世紀の多分野協創研究に向けて」の共催について

委員長および杉田委員(日本学術会議地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会幹事)より資料 4-1、4-2 に基づき、2021 年 9 月 18 日開催予定の標記シンポジウムについて説明があり、IAHS 小委員会として共催することが承認された。

なお、本シンポジウムは、2021 年度水文・水資源学会、日本水文科学会合同大会の最終日に、両学会の共催により開催される予定である。

(6) 第 25 期 IAHS 小委員会における活動方針について

委員長より資料 5-1、5-2、5-3、5-4 に基づき、第 24 期 IAHS 小委員会の活動方針とその成果、および、第 25 期の活動方針(案)について説明がなされ、意見交換が行われた。その結果、活動方針の 3. に、“IAHS 2022 in Montpellier において、我が国からの参加者数を増やし、我が国のプレゼンスを示すことができるよう、学会等の機会を通じ、IAHS の活動、特長等の周知を推進する”という趣旨の一文を

加筆することになった。その他、主な意見は以下のとおり。

- 活動方針について、全体として、漠然とした印象を受ける。具体的に、学会等の機会において IUGG、IAHS 等との連携を図るセッション等を検討してはどうか。我々自身が IAHS に積極的に参加することも含め、若手研究者や大学院生等が、IAHS、AGU、EGU 等、国際的な水文コミュニティに入っていくことのできるような枠組を構築することが必要である。
- IAHS Assembly は、AGU や EGU とは異なり、先進国、途上国、新興国の研究者が一堂に会する場である、という特徴がある。若手研究者や大学院生にとり、同世代の背景の異なる国々の研究者等とコミュニケーションをとる貴重な機会でもあるので、日本からより多くの参加者が出るよう働きかけたい。
- 次回 IAHS Scientific Assembly は、IAHS 100 周年を記念し、2022 年 5 月 29 日から 6 月 3 日、フランス・モンペリエにおいて開催される。日本からのコミットを復活させる良い機会としたい。
- 活動方針 3. に、IAHS 2022 への積極的貢献を加筆してはどうか。
- IAHS の各表彰に、日本の水文コミュニティから確実に推薦していくことは重要である。
- 活動方針 5. に関し、Hydrological Research Letters 誌に IF (Impact Factor) が付与されることは重要だが、投稿数が安定して確保されることが必須。現状、IF 付与の見通しはたっていない。
- とくに若手研究者等は、IAHS を縁遠く感じている傾向がある。
- IUGG、IAHS Assembly は、世界各国で開催される。若いうちに、そうした機会を利用し、様々な国・地域を訪問することには重要な意義がある。また、そうした機会に、日本の同世代研究者と、濃密なコミュニケーションをとり、人脈を構築する貴重な機会でもある。
- IAHS Assembly には、AGU や EGU とは異なる、アットホームな雰囲気がある。
- IAHS は、各国の National Committee を基盤組織とするため、国代表を通じて各国の水文コミュニティとコンタクトをとることも可能である。このような IAHS の機能は、独特のものではないか。
- IAHS Assembly におけるワークショップ等の内容も、重要である。かつて、USGS の Jake Peters 博士は、IAHS Assembly において、流域水文・物質循環プロセスに関わるワークショップを毎回開催し、それは、当該分野の若手研究者が発表する受け皿としても機能していた。このように、ワークショップのテーマは、発表者にとり重要であるので、人材育成の観点からも、毎回類似のテーマが確実に開催されるように配慮する必要もあるのではないか。
- IAHS Assembly ではかつては、地道にとられた長期データを紹介し合うようなワークショップがあり、途上国の貴重なデータセットに触れる良い機会でもあった。そうしたワークショップが、減っているように思われる。
- Assembly のワークショップは、コミッションから提案されることが中心になるので、各コミッションに我が国から中堅、若手研究者を出していくことも必要である。

(7) 分科会・小委員会委員間のメールアドレス共有について

委員長より説明があり、第 25 期における分科会・小委員会委員間のメールアドレス共有が、承認された。

(8) その他

その他、IAHS 小委員会の活動方針に関し、意見交換が行われた。主な意見等は、(6) に記載のとおり。

4. 配布資料

資料 1-1 (p. 2): 第 25 期 IAHS 小委員会の設置について (申請書)

資料 1-2 (p. 3): 第 25 期 IAHS 小委員会委員名簿

資料 2-1 (p. 4): Dooge Medal 候補者推薦募集要項

資料 2-2 (p. 5): Dooge Medal 候補者推薦書

資料 3-1 (p. 7): 日本学術会議 学術フォーラム フライヤー

資料 3-2 (p. 9): IUGG 紹介スライド (IAHS 関連: p. 18-19)

資料 4-1 (p.31): 日本学術会議 公開シンポジウム 概要

資料 4-2 (p. 33): 公開シンポジウム共催依頼書・回答書

資料 5-1 (p. 35): 第 24 期 IAHS 小委員会の活動方針について

資料 5-2 (p. 36): 第 24 期 IAHS 小委員会の主な活動報告

資料 5-3 (p. 37): IAHS 小委員会 (第 24 期第 1 回) 議事録

資料 5-4 (p. 39): 第 25 期 IAHS 小委員会の活動方針について (案)

参考資料 1 (p. 40): IAEA 主催、IAHS 小委員会後援トレーニングコース報告

参考資料 2 (p. 43): JpGU セッション (2019 年 5 月) における IAHS 紹介スライド

参考資料 3 (p. 58): IAHS 主要委員等名簿

参考資料 4 (p. 63): IAEA/RCA 国内シンポジウム 2019 フライヤー

参考資料 5 (p. 65): IAHS Scientific Assembly (29th May – 3rd June, 2022; Montpellier) Flyer